

雑草の主要構造体に関する'雑な'研究

梅雨が明け、日差しが強くなるころ、沢山の雨水を吸った土は、植物の生長にとってもとても良い条件となる。そのため、一般的にガーデナーはこの時期が最も忙しくなる。それとともに、植物の生長も早く、予期しない植物も生えやすい。その代表が雑草であろう。ガーデナーにとって、必死に世話をしている庭からによきによきと生えてくる雑草は、この上もなく邪魔者に見えるに違いない。しかしながら、花園フォレストのガーデンデザイナーである野田¹⁾も、「風景に溶け込んでいる限り、雑草と言われる植物もあえて抜かずにそのままにしておきます」という自論があるように、雑草の扱いも人それぞれである。当方もあまり抜かない(手抜きで、抜いてない?)。その甲斐あって、によきによきと雑草が生えている。その中でもひととき目立つ直立性の背の高い雑草が、図1



図1 雑草

である。調べると、学名は *Conyza sumatrensis* で、日本名はオオアレチノギクと言う。日本生態学会によって日本の侵略的外来種ワースト100に選定されている種である²⁾。しかし、その直立性は雑草と言えども見応えがあり、なかなか興味深い。そこで今回、その直立性の高さが、如何に成されるかについて、その雑草の茎と根の主要な構造体の寸法から'雑に'調べた。

雑草の茎と根の寸法を、図2に示す。地中から地上に向かっては、1100 mm、根は左右

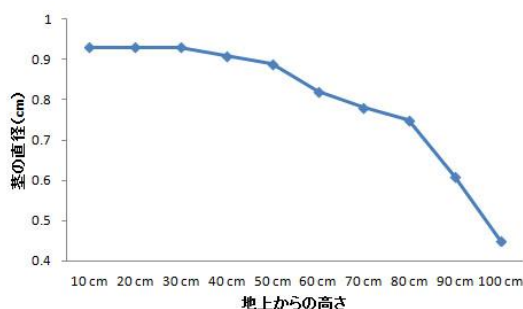


図3 雑草の茎の直径

長が280 mm、高さが110 mmであった。その構造に関する面白い点として、地上と地下の高さが10倍であり、根の左右長がともに280 mmとなっていたことである。また、左右の根の水平となす角度は、左右差があるも採取した状態から判断すると、15°であった。さらに、この茎

の断面は円であるが、その直径について地上から10 cm刻みで計測すると、

図3のようになった。

図3の特性から、なんとなくイメージされたのが、図4である³⁾。図4は見て分かる通り、スカイツリーである。このスカイツリーも高さの6、7割に段があり、8割ほどにて段があり、その先は急激に細くなっている。スカイツリーの設計者がこの雑草を参考にしたかは不明だが、スカイツリーのような高さのある構造体の安定性を保証するには、このような構造が必要とされることが分かった。

謝辞：計測に先立ち引っっこ抜かれた雑草さんに感謝の意を表します。

- 1) 野田良明：お菓子工場に咲いた夢の花景色. BISES 81, 30-31, 2012.
- 2) <https://ja.wikipedia.org/wiki/オオアレチノギク> (閲覧 2015.8.2)
- 3) http://www.tokyo-date.net/machi_skytree/images/08.jpg (閲覧 2015.8.3)

植
い
き
新
聞



植物いきいきサークル

第80号

発行者:犬丸

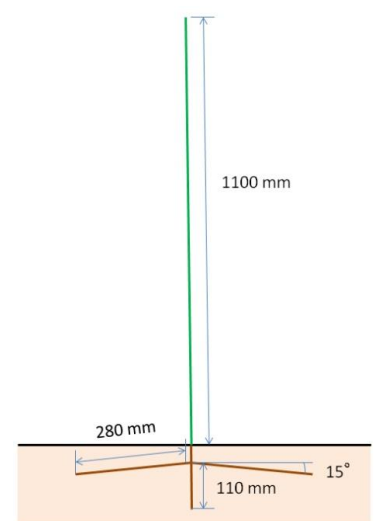


図2 雑草の主要構造の寸法



図4 スカイツリー